

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	全体的に授業に対しては意欲的に取り組んでいる。漢字の書きとりや文法など、知識面の定着度には個人差があるが、昨年度までと比べて力は伸びている。文章の読み取りでは、選択肢で答える問題の正答率が低くなる傾向にあり、細かな表現の違いなどを正確に読めていない生徒が目立つ。また、作文では一定の型通りにしか書けない生徒や原稿用紙の使い方に課題がある生徒が多い。	・授業内での問題演習量を増やし、特に選択肢で答える問題については丁寧に解説を行う。 ・文章を書く課題を増やし、原稿用紙の使い方や様々な書き方の指導を行う。	・選択肢を用いた問題については、授業内での演習や定期テストを通して解き方の学習をし、判断する力が身に付いた。 ・原稿用紙の使い方は、全員には定着しなかった。日常的に書く機会を設けることが今後の課題である。
社会	全体的に意欲的に出された課題に取り組んでいる。個人差はあるものの、基本的な用語の理解は概ねできおり、自分の考えを書いたりすることもできている。しかし、3つの資料を見て、読み取る際に、1~2の資料しか触れることのできない生徒が目立っていた。また、文章でまとめる際に事実を羅列するだけの生徒も目立った。	・ワークシートなどに複数の資料を読み取る課題を増やしていく。 ・ワークシートだけでなく、意見交換やタブレット(JamBoard)を使って自分の考えをまとめ表現する行う場面を増やしていき、慣れさせていく。	・ワークシートで自分の考えを書く場面を増やしたので、自分の意見を書く習慣がついた。資料を読み取る場面を増やし、必要な情報を抜き出す力が身に付いた。Jamboardでは単語や短文は入れられるものの、考えを書き出すことが難しく意見交換やまとめの活用の工夫が課題である。
数学	・基礎的な計算などの処理能力は少しずつ身についてきている。 ・第1・2学年に学習した内容の定着が不十分な生徒がいる。 ・記述式の問題や、文章題に対して苦手意識をもっている生徒が多い。	・授業の導入での既習事項の振り返りや帯活動での計算プリントを通して、基礎的な学力の定着を図る。 ・定期考査の度に行う解き直し・振り返りレポートを通して、学習内容を振り返る習慣の定着を図る。 ・文章問題や応用問題を解く時間を増やしていく。証明などの記述式の問題では、部分練習を用	・授業の始めの計算プリントを通して、分数をふくむ計算・方程式・確率・角度を求める問題が解けるといった基礎的な学力を定着させることができた。 ・振り返りレポートを通して、一度間違えた問題をじっくり見直す生徒が増えた。 ・文章問題を解ける生徒は増えてきているが、まだ苦手意識を持っている生徒がいるため粘り強く指導を続けていく必要
理科	・実験など手を動かす活動や話し合い活動に意欲的に取り組む様子が多くみられる。 ・基本的な用語の理解はおおむねできているが、数値を計算して答えを出すことや複数の実験結果から読みとれる事を文章として表現することを苦手としている生徒が多い。	・授業内での問題演習の量を増やし、計算問題や思考を要する問題への苦手意識をへらしていく。 ・タブレットを用いて日常的に実験内容から読みとれた内容をレポートとしてまとめさせる事で、実験内容の理解と文章表現力を高める。	・演習時間が増えたことで問題に対する答えのパターン認識は高くなったものの、本格的な科学的な思考力を必要とする問題に対して複雑な思考を求められると解答に窮する姿が多く見られた。継続的な演習時間の増加が必要と考えられる。 ・生徒自身の言葉で文章をまとめるため個々の文章の差が明確にわかるため、
音楽	・歌唱(特に合唱)では意欲的に取り組んでいる。知識を活用して表現しようとする場面が見られるようになった。 ・リコーダーもほとんどの生徒が基礎的な奏法が身に付いてきた。 ・鑑賞では自分の言葉で表現できる生徒が増えてきたが、一方で、まだまだ雑な生徒がいる。	・合唱コンクールを目標に知識を活用して表現を深めていくことを意識させる指導をする。 ・リコーダーでは、暗譜など発展的な展開をし、技能を高めていく。 ・鑑賞分野では、設問を短くし、書くポイントを絞らせ、きちんと書く指導をする。	・3年間の総括として、授業で学んだ知識を活用し、曲の背景、歌詞の意味を理解し学びを深め、合唱コンクールにおいては主体的に取り組む表現活動を行えた。
美術	・作品完成までにかかる時間の個人差が大きい。特にアイデアスケッチ(思考・判断・表現)につまずきが多く、完成までの見通しが曖昧なまま進めている生徒も多い。 ・振り返りが制作工程に対する進捗の確認のみで完結し、自分の目標設定が曖昧な生徒や受動的な生徒が多い。	・机間指導の際、つまづきのある生徒を優先的に指導し、アイデアを形にするための支援をする。 ・毎回の振り返りを作品(思考・判断・表現)に活かすため、「何ができたか(制作工程)」だけでなく、「どのようにできたか(表現内容)」を振り返りと次回の目標に書くよう指導する。	・支援が必要な生徒を優先的に指導をしたり、授業中に生徒間で途中段階を鑑賞させて、活動を促すことができた。 ・振り返りと次回の目標を書かせることで、授業内に完成させる見通しが持てるようになったり、表現をより豊かにできるよう主体的に取り組めるようになった。振り返りを書く時間の確保が課
保健体育	①各種目に応じて自己やグループの能力を知り、適切な課題設定、及び、主体的に取り組める力を付けさせること。 また、その中から、リーダーの育成にも努める。 ②十分な運動量を確保し、基礎体力・基礎技術の向上から応用力をつけることに力を入れる。	・マネジメント(準備・移動・待機)の時間が少ない行動を行い、運動量の確保、生徒主体の活動を確保する。 ・運動経験を増やすため、種目ごとに合うトレーニングを準備運動に取り入れていく等、工夫する。	・体育係が中心となり、指示を出して進めることができた。 ・生徒が授業を組み立てられるよう、選択できる場面を多くした。 ・球技のウォーミングアップの仕方を工夫し、運動量を増やす取り組みをした。
技術・家庭	・消費生活に関する学習に興味を持つ生徒が多い。特に売買契約、支払方法などに関心が高い。 ・生活の課題に気づき、今までの学習を活かして問題解決のための工夫ができるようにする。	・生徒の興味関心を高める発問や、身近な事例を多く準備し、自分の消費行動と社会との関連性を理解し実生活に生かせるよう指導する。 ・授業で学習したことが、生活を豊かにし生活に生かせる知識と技能となるよう、実際の生活と関連付けた授業の展開を行う。 ・教師の指導だけでなく、生徒同士の教え合いなどを効果的にできるように支援していく。	・消費生活、契約、悪質商法等身近な内容やSDGsと環境問題について学び、自分自身の課題を見つけ、解決策を考える力が身に付いた。 ・今年度も調理実習を実施できなかったことが課題として残る。
外国語(英語)	・その単元を学習しているときには、既習の基本文はある程度定着しているが、継続した積み重ねの力になっていない。 ・「書くこと」については、与えられた情報に基づいて正確に英語で表現することが苦手な生徒もいて、課題である。	・基本表現を用いての帯活動で、自分のことや身の回りのことについて表現する活動を強化する。 ・語順や動詞にミスが見られるため、最も重要な動詞を復習し、まとまりのある英文を書く機会を多くする。	・成果として、単元ごとのスピーキングテストとリテリングテストを繰り返してきたことで、まとまりのある文章を表現する力が伸び、英作文の力が増した。 ・課題として、長文の概要理解を2学期から集中して行ったが、1学期の早い段階から教科書以外の長文に触れさせ、指導すべきであった。
道徳	・通り一遍な発言で終わってしまうことが多く、他者の考えから自分の考えを深めるといった多面的・多角的な気づきをもたせることが難しい。 ・道徳的価値について自発的に発言する生徒が少なく、限られた生徒の考えの共有になりがちである。 ・担任だけでなく副担任も含めて1人の授業者が同じ道徳の教材を毎週違うクラスで実施するローテーション道徳を行うことを2学期以降検討していく。	・班や小グループ等様々な形で生徒の考えを共有できるような工夫することで、本音で語ったり、互いの意見に耳を傾けて考えることができる機会を作り、対話や討議で考えを深めさせる。また、生徒の意見を元にした更なる投げかけを工夫する。 ・授業内で考えたり共有したことが後に自分事として捉えられ、日常の行動に生きてくるような授業展開を工夫する。	・グループでの話し合いが回数を重ねるにつれて活発に行われるようになってきた。 ・授業の指導形式がワンパターン化してしまったり、生徒の多様な思考を引き出す手段の工夫が必要と感じたので、教員のローテーションを導入するなどしてアプローチの仕方を工夫していきたい。
総合的な学習の時間	家庭のインターネット環境が整ったり、1人1台のタブレットが導入されたことで、調べてまとめる学習が行いやすくなり、生徒が調べたことを見やすくまとめる能力が向上している。 一方で、紙の地図を見る習慣などが減り、資料を多面的・多角的に見る力が過去の生徒よりも劣っているように思われる。	・修学旅行の事前学習などの活動を通して、インターネットだけでなく、地図や冊子の資料を使いながら調べ、また、実際に京都の街を地図を使い歩くことで様々な資料で情報を集めることの重要性に気づかせていきたい。	・1人1台のクロムブックを活用して、生徒が主体的に調べようとする姿勢が見られ、活用能力も向上した。 一方で、安易にネットに頼る傾向も見られ、地図や本を使って調べることの良さも実感させる指導の工夫が必要である。